

2019 年度春季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2019 年 5 月 15 日（水）～18 日（土）

午後：シンポジウム

第 4 日（5 月 18 日）

午前：口頭，ジュニアセッション

午後：口頭，公開気象講演会

2. 会 場

国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

<http://nyc.niye.go.jp/>

※ジュニアセッションの件数によっては第 4 日午前にポスター発表を行うこともあり得る

3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。

5. シンポジウム

大会第 3 日（5 月 17 日）の午後に開催予定です。テーマは「多重階層システムとしての気候の研究」です。

4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（5 月 15 日）

午前：口頭，ポスター

午後：口頭

第 2 日（5 月 16 日）

午前：口頭，ポスター

午後：総会，受賞記念講演，懇親会

第 3 日（5 月 17 日）

午前：口頭，ポスター

6. 懇親会

大会第 2 日（5 月 16 日）の夕刻（18:15～を予定）に，大会会場にて開催予定です。

7. 大会ウェブサイト

本大会用の大会ウェブサイトを開設しています。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては，こちらをご参照下さい。URL 等につきましては，気象学会ホームページ（<http://www.metsoc.jp/>）をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

「天気」本号掲載の「日本気象学会 大会発表規程」に従って講演の申し込みを行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や，クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など，止むを得ない事情がある場合は，電子メールによる申込を受け付けます。

なお，大会参加登録，参加費・投稿料支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意下さい。 また，非会員の講演申込は専門分科会に

限定していただきますのでご注意ください（VI. 非会員，団体会員の大会講演について）。

1.1 オンラインによる申込

- ・締切：2019 年 2 月 5 日（火）15 時（日本時間）
- ・大会ウェブサイト参照し，指示に従って申し込みをして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います（前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが，改めて個人情報と ID・パスワードの登録を

行って下さい)。この ID とパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・参加費決済などを行います。

- ・ 個人情報と ID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つの ID で、講演者の異なる 2 件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・ 事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です。登録の際には、郵送物を受け取ることが出来る住所（必要な場合は部署名まで）を記入してください。
- ・ 講演申込の前に、予め大会参加登録と参加費・投稿料の払込（クレジットカード決済）を行って下さい。大会参加登録と参加費・投稿料の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・ オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・ 大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）に限ります。
- ・ 大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・ 講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・ 講演申込み締め切り（2月5日（火）15時）までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・ 締め切り後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・ 締切：2019年1月29日（火）

（オンライン申込に比べて締切日が 1 週間早くなっています。ご注意下さい。）

- ・ 以下の 4 点を講演企画委員会事務局（下記）まで電子メールにてお送り下さい。

- ① 大会予稿原稿（PDF 形式）
- ② 講演者氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）、所属、所属略称、会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）、発表形式、連絡先（住所・電話番号・E-mail アドレス）、講演題目、主・副キーワード、投稿料種別（投稿料 A / 投稿料 B）、懇親会（参加 / 不参加）、その他必要事項を書いたもの（様式は自由）
- ③ 郵便振替払込受領証のコピー（次項参照）
- ④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書（フォーマットは以下に掲載）

http://www.metsoc.jp/E/mjsj_copyright.pdf

送付先：kouenkikaku2019s@mri-jma.go.jp

（件名に「講演申込 2019s」と明記して下さい。）

- ・ 講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって参加費・投稿料を納入して下さい。

－口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ① 「2019 年度春季大会参加申込」と明記
- ② 会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
- ③ 投稿料種別（投稿料 A または投稿料 B）
- ④ 参加費・投稿料金額
- ⑤ 懇親会費金額
- ⑥ 合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

- ・ 事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です。上記の住所記入の際には、郵送物を受け取ることが出来る住所（必要な場合は部署名まで）を記入してください。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・ 講演申込み後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・投稿料・懇親会費は返却しませんのでご注意下さい。

- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会 (kouenikaku2019s@mri-jma.go.jp) までご相談下さい。ただし、非会員による代理発表は認められません。

2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2019年4月2日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい（クレジットカード決済のみ）。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は、参加登録は無効となります。

事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です。登録の際には、郵送物を受け取ることが出来る住所（必要な場合は部署名まで）を記入してください。

2.2 郵便振替による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2019年3月26日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込んで下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、
 - 加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ①「2019年度春季大会参加申込」と明記
 - ②会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
 - ③参加費金額
 - ④懇親会費金額
 - ⑤合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担でお願いします。
 - －事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です。上記の住所記入の際には、郵送物を受け取ることが出来る住所（必要な場合は部署名まで）を記入してください。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払って下さい（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意下さい）。

3. 参加費、投稿料、懇親会費

3.1 大会参加費、投稿料

- ・今大会より参加費は参加費と投稿料に分離されます。参加費には大会講演予稿集費が含まれます。詳細は気象学会ホームページに掲載予定です。
- ・参加費（予稿集費含む、消費税込）は以下の表の通りです。

参加費		
種別	前納	当日
会員	5,000円	6,000円
非会員	9,000円	10,000円

- ・投稿料（消費税込）は以下の表の通りです。

投稿料		
種別	1件	2件
投稿料A	6,500円	11,500円
投稿料B	3,000円	6,000円

- ・投稿料の種別：
 - 投稿料A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）
 - 投稿料B：投稿料Aに該当しない講演者による投稿
- ・投稿料Aの2件目の投稿料は5,000円に割引されます。
- ・気象学会会員でない方の講演発表については、「VI. 非会員、団体会員の大会講演について」を参照して下さい。

3.2 懇親会費

- ・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	4,000円	5,000円
学生	1,000円	1,000円

- ・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費

と同時に前納することが出来ます。期日までに懇親会費の払い込みが済まされない場合は、前納による参加登録は無効となります。当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

- 一旦支払われた参加費・投稿料・懇親会費は返却いたしません。

- 参加費・投稿料・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

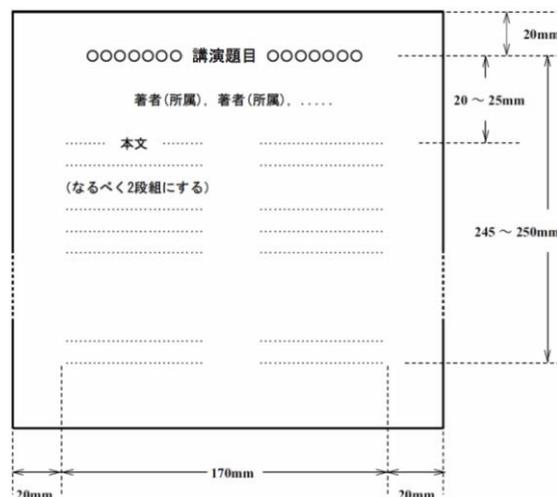
ファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

3. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に＊をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。

4. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（公社）日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

Ⅳ. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（専門分科会を含む）とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。また、2 件の口頭発表を申し込まれた場合、

希望通りのセッションに組み込むことが出来ない場合があることをご了承ください。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承ください。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会の各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は2月5日（火）、電子メール申込は1月29日（火））です。
- ・専門分科会に申し込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申し込まれた発表が、世話人によって専門分科会に適さないと判断された場合には、講演者が気象学会会員の場合は、一般発表に振り替えます。講演者が非会員の場合は、大会予稿は不採択となり、参加費・投稿料が返却されます（VI. 非会員、団体会員の大会講演について）。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません（ジュニアセッションを除く）。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは、縦150cm×横180cm（脚の高さ60cm）とします。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（専門分科会を含む）につきましては、PCプロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
 - －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター、接続ケーブルを準備します。
 - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
 - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。
- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

8. その他

- ・大会プログラムは大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2019年度春季大会では下記の通り、4件の専門分科会が開かれます。

1. 「ひまわり8・9号がもたらす新しい気象学と、

後継衛星への期待」

趣旨：2014年10月に打ち上げられた「ひまわり8号」はそれまでの静止衛星と比べ大幅に機能が強化され、台風や局地的大雨などの顕著現象小野実況に加え、エーロゾルや海面水温、海水、植生、火山灰などの詳細な監視やデータ同化などに用いられ、防災・気象情報の高度化に大いに貢献するとともに気象学においても新しい知見をもたらしつつある。さらに気象庁では、この「ひまわり8号」およびその同型衛星である「ひまわり9号」で得られた知見や国際的動向を踏まえながら、イメージャのみならずサウンダや雷光センサー等の有効性や搭載可能性を含めて、次の衛星についても議論を開始した。

本大会では、「ひまわり8・9号」の利用成果やプロダクト開発、データ提供、校正・運用等について情報を共有するとともに、後継衛星への期待や、サウンダや雷光センサーの活用の可能性等についても幅広く議論していきたい。

世話人：岡本幸三（気象研究所）、中島 孝（東海大学）、本田嘉明（千葉大学）、増永浩彦（名古屋大学）、岩淵弘信（東北大学）、別所康太郎（気象庁）

2. 「東アジアで近年発生する極端現象に対する地球温暖化の寄与とその将来予測」

趣旨：地球温暖化の進行に伴い、将来、猛暑や強雨、強い台風の増加、積雪の減少等が指摘されている。2018年は、冬の寒波、夏の豪雨や猛暑、非常に強い勢力の台風の上陸等、異常気象が多発した。異常気象やそれに伴う極端現象は様々な自然変動の影響を受けて発生するが、地球温暖化が寄与した可能性もあり、研究の進展が求められている。そこで本専門分科会では、日本を含む東アジアで生じる極端現象に対する過去から将来に渡る人為起源地球温暖化の影響について、様々な視点から議論する。降水・気温等の頻度変化や、梅雨前線、台風、ストームトラック、Atmospheric River、海洋との相互作用等の極端現象を引き起こす要因の変化について、過去データの統計的解析、大規模アンサンブル、高解像度全球モデル・領域モデルによるダウンスケール実験、個別の異常気象に対するEvent Attribution等様々な手法による研究を期待する。

世話人：川瀬宏明（気象研究所）、佐藤正樹（東京大学）、今田由紀子（気象研究所）、釜江陽一（筑波大学）、佐藤友徳（北海道大学）、竹見哲也（京都大学）、森 正人（東京大学）、山田洋平（海洋研究開発機構）

3. 「気象庁データを利用した気象研究の現状と展望」

趣旨：気象庁と気象学会との包括的共同研究契約である「気象研究コンソーシアム」が締結されて11年が経過しました。コンソーシアムでは、数値予報用実況解析、各種数値予報データなどの気象庁モデルの出力データのみならず、海面水温解析値や気象衛星ひまわり8号データなどの最先端の解析・観測データの提供などを通じ、気象研究とその研究成果の社会還元への促進に努めています。

本分科会では、

- (1) 数値予報の出力データを利用した研究
- (2) 気象衛星ひまわり8号データなど新しい観測データを用いた研究
- (3) 数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究

などに関する講演を募集し、気象庁データが拓く新しい気象研究について展望します。なお、本分科会への講演申込には、コンソーシアムへの参加の如何は問いません。

世話人：坪木和久（名古屋大学）、余田成男（京都大学）、石田純一（気象庁）、長谷川昌樹（気象庁）

4. 「GEWEX アジアモンスーン水文気候学研究の新しい挑戦」

趣旨：GEWEX (Global Energy and Water Exchanges)のもとGAME, MAHASRIと続けられてきたアジアモンスーン水文気候学研究の新しい枠組み (Post MAHASRI プロジェクト) が打ちあげられようとしている。Post MAHASRI プロジェクトは、アジア域の陸面過程のインパクトと降水過程、スケール間相互作用の解明を焦点に、季節内から数十年スケールの変動と気候変動予測の改善に資することを目指す。今回の専門分科会では、アジアモンスーン研究への多様な科学的アプローチや問い、2020年に予定されている統合観測モデリングイニシアチブ Asia Monsoon Year (AMY)-II への展望を交流する。

世話人：寺尾徹（香川大学）、鼎信次郎（東京工業大学）、松本淳（首都大学東京）

VI. 非会員、団体会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では専門分科会に申し込まれた講演が世話人により採用された場合に限り、非会員の講演を認めることとします。非会員が専門分科会に申し込んだ講演が採用されなかった場合は、大会予稿は不採択となり、参加費・投稿料が返却されます（講演者が気象学会会員の場合は、専門分科会で不採用になったとき、世話人と講演企

画委員会の判断により一般口頭もしくはポスター発表への振り替えが行われます）。講演企画委員会としては、大会での講演発表を希望される方には、気象学会会員になって頂くよう強く要請します。

団体会員が団体名での講演申込を行った場合、個人会員と同等の扱いとなり、2件以内まで講演を行うことができます。ただし、団体の構成員である個人の講演申込は認めておりませんのでご注意ください。

VII. 研究会活動への支援について

大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動（一般の会員が自由に参加できるもの）に対し、支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2019s@mri-jma.go.jp）へご連絡下さい。

申込期限：2019年2月5日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容

VIII. 大会期間中の保育支援について

大会期間中の会場近隣の保育施設として、次の施設を紹介します。

セルリアンタワーポピンズキッズルーム
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 26-1
セルリアンタワー東急ホテル 3F（渋谷駅徒歩5分）
Tel: 03-5728-1377
Fax: 03-5728-1377

<https://www.poppins.co.jp/nursery/cerulean.html>

完全予約制のため、利用希望日の1ヶ月前～2日前までにご予約ください。

3日前まではご予約・お問い合わせフォームにて

予約、2日前の場合は電話でのお問い合わせをお願いします。

保育対象年齢は、生後57日から就学前までです。また、学会からの保育補助は下記の保育支援ガイドラインに則ります。

http://jinzai.metsoc.jp/files/childcare_support_guideline.pdf

上記は情報提供のみであり、保育施設への申し込みは直接利用者個人で行ってください。補助の申請は事前に気象学会事務局へお願いします。

Ⅷ. キャリアエクスプローラーロゴについて

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧めています。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。

2. キャリアエクスプローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。



3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプロ

ーラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

Ⅹ. リクルートブースの設置について

日本気象学会は、大会会場にてリクルートブースを設置する予定です。これは、適職に出会うための機会を民間企業から広くご提供いただくことにより、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者のキャリア形成をサポートする試みです。企業の

就職担当者の方々にご来場いただき、就職を希望する参加者と直接情報交換する場を提供します。ブース訪問希望者の参加予約等の手続きは不要です。なお、参加企業名は大会プログラムとともに発表の予定です。

Ⅺ. 大会実行委員会からのお知らせ

本大会では、前納受付者には事前に大会参加票と「日本気象学会 2019 年度春季大会ハンドブック・シ

ンポジウム要旨集」を郵送します。前納受付者は大会参加票を持参のうえ、そのまま会場へお越しくだ

さい。前納受付者で大会参加票を破損・紛失した方、および懇親会を当日新たに申し込まれる方、ならびに当日受付者は、大会受付までお越してください。当日参加者への予稿集の配布用にUSBメモリを用意し

ますが、混雑防止のため、できる限り予めダウンロードしてお越してください。なお、施設には無料WiFiサービスはありません。

XII. 大会講演予稿集と大会参加費の見直しについて

本大会より大会講演予稿集の配布方法ならびに大会参加費を見直しました。予稿集については、製本版に代わり、参加者全員に電子版予稿集をダウンロ

ード配布します。詳しくは気象学会ホームページに掲載予定です。

公益社団法人 日本気象学会 大会発表規程

(公社) 日本気象学会 講演企画委員会

1. 大会の趣旨

1.1 日本気象学会は、気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、学術文化の発達に寄与するために、気象学会大会を春季と秋季の年二回開催し、気象に関する研究会および講演会を行う。

2. 大会参加登録

2.1 大会において口頭発表またはポスター発表を行う者（招待講演者も含む）は、あらかじめ大会 WEB サイトを通じて個人情報登録ならびに大会参加登録・参加費決済を行うこと。

2.2 大会で講演（口頭発表及びポスター発表）を行うためには、招待講演者の場合を除き、大会予稿を投稿し、講演企画委員会（以下、「委員会」という。）により採択される必要がある。

2.3 個人情報登録と大会参加登録は本人が行うこと。連絡先は本人に必ず連絡が取れる所とし、代理人の連絡先は認めない。事情に応じて事務局から問い合わせを行うことがある。ただし国外からの参加登録、外来研究者による参加登録、インターネットを利用できないなど、本人による登録がやむを得ず困難な場合には、代理人による登録ができる。

3. 大会予稿の作成

3.1 大会予稿の形式等に関しては、大会告示案内（大会 WEB サイトに掲載）に従うこと。

4. 著作権の委譲

4.1 本予稿原稿の著作権は、日本気象学会常任理事会決定「気象学会の刊行物の著作権委譲の強化について（2013年1月29日付け）」にもとづき、気象学会に委譲するものとする。

5. 大会予稿の投稿

5.1 大会予稿の投稿は、発表者が指定された期日までに行うこと。投稿に際しては、共著者の了承を得るとともに、全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書を提出すること。国外からの投

稿、外来研究者による投稿など、発表者による投稿がやむを得ず困難な場合には、代理人による投稿ができる。なお、発表者の承諾を得ずに代理投稿された場合には、それを受理しない。

5.2 同一発表者による発表可能件数は、最大二件までとする（招待講演もカウントする）。

6. 審査

6.1 委員会は、審査により、大会予稿の採択または不採択を決定する。大会予稿の採択または不採択は、委員会の裁量に委ねられ、以下に示す例のように、大会予稿の内容が気象学会大会発表として不適切だと委員会が判断した場合には、不採択とすることが出来る。

(1) 発表内容が他人の研究成果の剽窃と判断される場合、

(2) 大会予稿が定められた体裁から著しく逸脱すると判断される場合、

(3) 発表内容が社会倫理上、不適切と判断される場合、

(4) 発表内容が特定の個人ないし団体を誹謗中傷するものと判断される場合、

(5) 大会の趣旨を逸脱した目的のために投稿がなされたと判断される場合、

(6) その他大会の趣旨に鑑み、発表内容が不適切であると判断される場合

6.2 発表形態（口頭発表またはポスター発表）は、発表者の希望を考慮し、委員会が決定する。

6.3 大会予稿が不採択となった場合には、委員会から投稿者に対して理由を附して通知する。この場合、大会参加料（または参加種別による差額）は返却する。

6.4 不採択の理由を不服とする場合には、発表者本人が一回に限り再審査を申し立てることができる。

7. 再審査

7.1 再審査の申し立ては、申し立て者の氏名・連絡先、講演題目、著者、および再審査申し立ての

理由を記載した再審査申立書（様式は任意）を、委員会事務局宛に提出すること。

7.2 再審査申立書の提出は郵送で行い、不採択の通知を受けた日を含む七日間のうちに必着のこと。

7.3 再審査申し立てに際して、大会予稿の変更は認められない。再審査は委員会が行い、結果（採択・不採択）を申し立て者に通知する。

8. 採択後の変更・キャンセル

8.1 採択後に講演内容（講演題目、大会予稿）や発表形態を変更することは認めない。

8.2 病気等やむを得ない事情で発表をキャンセルする場合は、速やかに委員会事務局に連絡すること。発表がキャンセルとなった場合には、大会参加料は返却しない。